

2012年(平成24)4月

カルメル
霊性センターニュース



2012年4月

275号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の

259 回目の一般謁見演説(4) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・ 5 2

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 3

特 集

教皇ベネディクト十六世の 259 回目の一般謁見演説（4）

「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について

2011 年 2 月 16 日（水）午前 10 時 30 分から、パウロ六世ホールで、教皇ベネディクト十六世の 259 回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011 年 2 月 2 日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第 3 回として、「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

※ 霊性センターニュース 1 月号～4 月号に連載しています。

（前号からの続き）

この目標に達したとき、霊魂は三位一体のいのちそのものの中に溶け込みます。だから聖ヨハネは、霊魂が、神が愛してくださるのと同じ愛をもって神を愛するに至るというのです。なぜなら、霊魂は聖霊のうちに神を愛するからです。それゆえ神秘博士聖ヨハネは、三位一体との一致の頂に至っていなければ、それは真の意味での神との愛の一致ではないと断言します。この最高の状態にある聖なる霊魂は、すべてのものを神のうちに知り、もはや被造物を通して神に達する必要がありません。霊魂は神の愛に満たされているのを感じ、神のうちに完全な喜びを味わいます。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。最後に一つの間いが残ります。この聖人が述べる、崇高な神秘思想、完徳の頂に向かう熱心な歩みは、わたしたちにも何かを語りかけることができるのでしょうか。現代生活のさまざまな状況の中で生きる、普通のキリスト信者にも何かを語りかけることができるのでしょうか。それとも彼は、この清めと霊的上昇の道を実際に歩むことのできるわずかな選ばれた霊魂のために模範となるにすぎないのでしょうか。この問いにこたえるために、まず次のことを思い起こさなければなりません。

十字架の聖ヨハネの生涯は「神秘的な雲の上の飛行」ではありませんでした。むしろそれは、きわめて過酷な、実践的、具体的生活でした。修道会の改革者として、彼は多くの反対に遭いました。修道会の管区長だったときもそうです。同じ修道会の修道士によって投獄されたときもそうです。彼は獄中で信じがたい侮辱と身体的虐待を受けました。それは過酷な生涯でしたが、彼はまさに数か月間、牢獄にいたとき、もっともすばらしい著作を書いたのです。そこから次のことが分かります。

キリストとの道、すなわち「道」そのものであるキリストとともに歩むことは、すでに十分なわたしたちの生涯の重荷にさらに重荷を加えることではありません。この重荷をさらに重くすることではありません。それはまったく別のことがらです。それは光です。わたしたちがこの重荷を担う助けとなる、力です。もし人が自らのうちに深い愛を抱いているなら、この愛はその人にいわば翼を与えます。そして、人生の苦しみをもっとたやすく耐え忍ぶことができるようにしてくれます。なぜなら、その人は自らのうちに大きな光をもっているからです。この光が、信仰です。

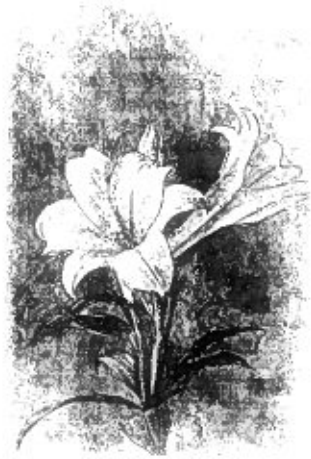
わたしたちは神から愛されています。キリスト・イエスのうちに神から愛してもらいます。このように神から愛してもらうことが、日々の労苦を耐え忍ぶための助けとなる、光です。聖性はわたしたちが作り出すものではありません。わたしたちが苦勞して作り出すものではありません。むしろそれは、このように「心を開くこと」です。神の光が差し込めるように、自分の心の窓を開こうではありませんか。

神を忘れずにいようではありませんか。わたしたちは、まさに神の光に心を開くことによって、力を見いだすからです。あがなわれた喜びを見いだすからです。主に祈りたいと思います。わたしたちを助けてください。このような聖性を見いだすことができますように。神から愛していただくことができますように。これこそが、わたしたち皆の召命であり、まことのあがないです。ご清聴ありがとうございます。

(カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳) (2011.2.17)



心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十三章 死を黙想する

1 死への備え

まもなく、あなたは死ぬであろう。だからあなたは、自分が死に対してどれほど備えをしているかを考えなさい。人は今日生きていても、明日はもう姿を消す。人々の目の前からいったん姿を消せば、すぐさま忘れられてしまう。現在のことだけに心を向け、未来のことをあらかじめ考えてみようともしない人間の心とは、なんとおろかで浅はかなものであろう。あなたはおこないと思いとにおいて、今日死ぬかのように行動しなければならない。清い良心をもっているなら、死はそれほど恐ろしいものではない。死をのがれようとするより、罪を避けようとするほうが正しい。今日、死の備えができていないなら、どうして明日はできると言えるのか？明日は確かではない。その明日が来るかどうか、どうしてわかるであろうか？

2 死の瞬間

私たちは自分の欠点を、これほどわずかししか改めようとししないのだから、長生きしても何の益になるであろう。長寿は、私たちをよりよくするものとは限らず、しばしば罪を増やすだけである。たとえ一日でも、この世でよく生きることができたら！多く人は、回心してからの年数を数えるが、改善の結果は、はなはだ少ない。死が恐ろしいものなら、おそらく長く生きることは、さらに危険なことであろう。自分の死の瞬間をいつも心に置き、毎日死の備えをする人は幸せである。いつか、誰かが死ぬのを見たならば、あなたもその人と同じ道を歩かなければならないのだと考えなさい。



復活されたキリストは
わたしたちを呼んでおられます。

わたしたち一人ひとりを、
いつか知ることになる永遠の名によって
呼んでおられるのです……。

その永遠の名は
すでに存在しています。*

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

まだ肌寒い日、膨らみはじめた木々の芽にときおり白いものが舞い降りてきます。それでも今まで霜柱がたっていた大地からは新しい「いのち」が顔をもちあげはじめました。このページをくる頃は、色とりどりの花が春の訪れを告げ、自然界の「いのち」の饗宴が繰り広げられていることでしょう。今年のイースターは四月八日。春爛漫の自然とともに死と罪に打ち勝った「復活のキリスト」のいのちの勝利を祝い、復活されたキリストこそがわたしたちの希望であることをあらたに思い起こしたいものです。

復活されたキリストはわたしたちを呼んでおられるのです。わたしたち一人ひとりを、いつか知ることになる永遠の名によって呼んでおられます……。

その永遠の名はすでに存在しているのです。*

神の似姿に造られた人間は、自分のうちに「呼ばれ応える」という相互性が刻み込まれています。人間の応えがどうしてもそんなにも大きな喜びを神に与えるのでしょうか……それは、その人の人格から湧き出る自由な応えだからです。

日々の汚れ、いたらなさ、失敗、罪の闇に覆われていても、覆われているからこそキリストの復活の「いのち」をさらに固く信じ、希望し、おん父の慈しみに信頼しつづけましょう。神に近づくのにふさわしいものになるまで待つ必要はありません。

わたしたちの罪を贖い「いのち」の勝利に輝く復活されたキリストの喜びのうちに、

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』より、聖母の騎士社

エデンの園(14)

九里 彰

園の主人が神であるならば、主人となろうとする人間は、園から出なくてはならない。主人は一人しかいないはずだからであり、また園にいる限り、主人に仕えなくてはならず、自分の思うようにはならないからである。

こうして、「創世記」における園からの追放は、イエスのたとえ話では「放蕩息子のたとえ」となる。前者では、失樂園は原罪に対する罰として神によってもたらされるのだが、後者では、人間が自ら求めて造り出した状態と行うことができる。言うなれば、自業自得の状態である。

(もちろん、前者においても、罪を犯すのは人間なので、自業自得と言えなくはないが、罪と罰ということ言えば、罰を下すのは神であるから、後者の、神が人間の勝手にさせた結果としての失樂園の状態とは異なる。)

いずれにせよ、主人と僕の関係で見れば、原罪とは、「人間が本来の主人である神を否定し、本来の僕である人間が、主人になろうとしたこと」にあり、その傾向は、今なお私たち人間の中に巣食っているということである。

マルコ福音書の第二回目の受難予告の直後に描かれている弟子たちの姿は、そのことをよく示している。

一行はカファルナウムに来た。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。彼らは黙っていた。途中でだれが一番偉いかと議論し合っていたからである。イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた、「一番先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者となりなさい」(33～35)。

カファルナウムへの旅路で、弟子たちが議論していたのは、「だれが一番偉いか」ということであった。実に、私たちが人生の旅路で常に話題にしているのは、このことではないだろうか。絶えず自分を他者と比較し、意識的に、あるいは無意識的に自分を他者の上に、優位に立たせようとしている。

しかし、この意識こそ、コンプレックス(複合感情)を引き起こすものであり、心の中にねたみやおごり、劣等感や優越感をはぐくみ、喜怒哀楽の感情で私たちを攪乱し、やがてさまざまな確執、激し憎悪や恨み、競争や争いを生み出す元凶となる。

主人と僕との関係で言えば、人間は、この世で絶えず主人に、一番偉い者になろうとし、僕にはなるまいと、四苦八苦しているということになる。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (153)



真理を思い出させてくれる友

時折、悲しみが私たちを圧倒し、もはや喜びを信じることができなほどになります。人生は、ちょうど、戦争や暴力や拒絶や孤独や果てしない失望で、縁まで満たされた杯のように思われるのです。

このような時、私たちは、つぶされたブドウが美味しいワインを作り出すことを思い出させてくれる友を必要としています。どんな喜びでも悲しみから生まれることを信ずることは、私たちにとってとても難しいことかもしれませんが、けれども、私たちが友の助言の方向へと一歩足を踏み出すならば、彼らの言うことが真理であると感じることができない時ですら、失われたと思われた喜びが再び見出され、悲しみに耐えることができるようになっていることでしょう。

(0407)

キリストの体、私たちの体

エウカリスティア祭儀のために私たちが集まる時、私たちはイエスの名によって集まっているのです。イエスこそ、パンを裂くことによってその死と復活を想い起させるために私たちに共に呼ばれている方なのです。その時、イエスは真に私たちの間におられるのです。「二人または三人が私の名によって集まる所には、私もその中にいるのである」(マタ 18・20)。

私たちの間でのイエスの現存とパンとぶどう酒の賜物の内にあるイエスの現存は、同じ現存なのです。私たちがパンを裂く時、イエスを見出すならば、兄弟や姉妹の中にもイエスを見出すのです。私たちが他者に「これはキリストの体です」と言いながらパンを与えるならば、それは、その人に「私たちはキリストの体です」と言いながら自分自身を与えているのです。それは、まったく同一の贈与であり、まったく同一の体であり、まったく同一のキリストなのです。

(1009)

(九里 彰訳)

***** みことばのひびき *****

枝の主日 (B)

マルコ 14:1-15:47

受難の主日としても知られる枝の主日は、イースターまでの聖週間の最初の日です。聖週間は受難に続くイエスのエルサレムへの勝利の入城を記念します。これは苦しみと十字架に続き、メシアである王としてのイエスを示します。入城のとき、エルサレムの人たちはイエスを自分たちの王と認め、「ダビデの子にホサナ、主の名によって来られる者に祝福があるように」と叫びます。教会はイエスのこの勝利の入城のを棕櫚の葉を持って再現し、主の受難を黙想します。

今週の福音を理解するかぎは、本日の第二朗読にあります。「キリスト・イエスのうちにあったのと同じ心があなたのうちにありますように」。イエスは神でありながら、ご自分を「空にし」、身を低くし、裸で、犯罪人として死なれました。同じ考えが第一朗読にもあります。敵の暴力に抵抗しない「苦しみの僕」のことを描いています。「私は抵抗もしないし、顔をそむけもしなかった」。暴力に対して暴力で対抗することを全く拒否しています。全ての出来事は野蛮で残酷なものでしたが、イエスは私たちのために忍ばれました。この箇所には本日だけでなく聖週間中も、又これからもずっと、たくさんの黙想し祈ることがあります。

イグナチオ・ロヨラが霊操の書で提唱しているように、これらのそれぞれの場に個人的にとどまりましょう。「私は言葉が語られる方向を聞こうとします。顔の表情を見るように努めます。黙想している神秘に入るためにでき得る限り高い自覚を持ってとどまります。神性がかくれて見えないので、どれほどイエスが人間的で無力に見えるかに、特別注意を払うべきです。キリストは私を大変愛しているので、私の拒絶と罪のために喜んで全てを忍ばれたと悟るべきです・・・」。

教皇ベネディクト16世は枝の主日の説教で言われました。「枝の主日の行列で、私たちはエルサレムへの入城に喜びのお祭り気分です。主に従っていく弟子たちの群衆に加わります。彼らと同じように、私たちが見る全ての奇跡に対して、暴力や虚偽に抵抗するために、世界に真理の余地をつくり、憎しみがあつたところに和解をもたらし、敵意が支配していたところに平和をもたらすために、私たちにどれほどの勇気を与えてくださっているか、大きな声で主に賛美します。イエス・キリストにおいて神のみ顔を見ることが出来るようになり、イエス・キリストのおかげで神のみ心が私たちに開かれることに対して、行列はイエス・キリストへの最初で最高の喜びの証です。このように枝の行列は王であるキリストの行列でもあります；私たちはイエス・キリストの王権を明言し、私たちはイエスをダビデの子、真のソロモン、平和と正義の王として認めます。私たちはイエスに服従します。イエスの権威は真理の権威だからです。枝の行列は（当時は弟子たちのためでしたが）本来は喜びの表現です。何故なら、私たちにイエスを認めることができるようにさせ、私たちにイエスの友人とし、私たちに生命へのかぎをくださるのですから。この喜びはイエスへの『はい』の表明でもあり、イエスが連れていってくださる場所にはどこにでも喜んでついて行くことでもあります。」

(Sr. Paulina)

「週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った」
(ヨハネ 20, 1)。

イエスの復活の記事に最初の登場するのはマグダラのマリアです。「ヨハネによる福音」では何も言われていませんが、他の福音書を見ると「以前イエスに七つの悪霊を追い出していただいた婦人」(マルコ 16, 9 参照 助 8, 2)と明記されています。それにしても、マグダラのマリアは、なぜ、朝早く、まだ暗いうちに墓に行ったのでしょうか。主が復活してそこで待つておられると予知していたからでしょうか。そうではないようです。他の福音書によると、イエスの遺体に香油を塗るためとされています。しかし、墓の入り口は大きな石に塞がれていて女の手で動かせるものではありませんから、イエスの遺体に近づける可能性は皆無であったと言うのが本当でしょう。無駄を承知で、朝早く、暗いうちに墓に行ったこととなります。イエスへの思い、イエスに愛され、変えられたとの感謝が、無駄とも、無駄とも思える行動にマグダラのマリアを駆り立てていたといわなければならないのです。イエスに出会う前の自分の生き方、イエスとの衝撃的な出会い、イエスとの出会い以降の自分の姿、このイエスとの過ぎ去った日々を思い巡らし、思い合わせて墓に急いだのでしょうか。そして、自分自身の今の姿、イエスによって変えられて生きている今の自分、これこそが、自分自身の本当の姿、たとえ、イエスは遺体となり、もはや何もしてくださなくても、自分の心の中に燃えているイエスへの感謝と愛は、自分が生きている限り消えることはない、こんな思いを胸に秘めて、マグダラのマリアは、墓に行ったのでしょうか。

いずれにせよ、「イエスは復活した」、このことは、マリアの視野にはまだ入ってきてはいません。しっかりと握り締めているのは、病人や罪人たちに、「立ち上がって、行きなさい」(助 17, 19)と宣言されたイエスの方への愛と信頼だけです。実は、「立ち上がって(アスタース)」この言葉には、「復活(アスタース)」が潜んでいるのですが。マグダラのマリアは、イエスだけが始めてくださった「立ち上がり」、新しい生活に忠実でした。この感謝と愛が、マグダラのマリアをイエスの復活の最初の証人とするのです。翻って、わたしたちは、イエスによって新しい命に「立ち上がらせていただいた」感謝と愛のうちに生きているのでしょうか。この感謝と愛があれば、きっとわたしたちも復活の証人に変えられてゆくでしょう。ルカ 渡辺幹夫

復活節 第 2 主 日 (慈しみの主日) ヨハネ 20 : 19-31

イエス・キリストの復活はキリスト教の中心、本質です。聖パウロが言うように、もしキリストの復活が無ければ、わたしたちの伝道は無駄なことで、その信仰も無意味です。イエスの復活は、弟子たちにとって初めての特別な神体験でした。福音書は、イエスの十字架上の死の後、落胆し、恐れに打ちのめされた弟子たちの様子を伝えています。このような時、全く予期しない時にイエスは彼らの目の前にお立ちになります。信じる事が出来ない弟子には、釘を打ち込まれた手と脇の傷をお示しになり、“平和があるように”と仰せになります。これは”シャローム”というユダヤの挨拶ですが、こうして主は最後の晩餐の席で弟子たちに約束なされたことを成就なさいます。最後の晩餐の時にイエスは弟子たちに誰も奪うことのできない平和を与えると仰せになったからです。この平和は私たちにまで及んでいます。真にイエスが私たちと共に居られ、私たちがイエスと共に居るなら、平和があるのです。

今日の福音には三つの考察が見られます：宣教の精神、見て信じる事、見ないで信じる事。一つはイエスが弟子たちに平和をお与えになったことに始まります。世が与えるものではないイエスご自身の平和です。次に聖霊の賜物をお与えになります。これは御父からのもので、全てのことを教え、イエスが仰ったことを弟子たちに思い起こさせます。それから彼らに息を吹きかけ、人の罪を赦し、人を愛し、教会を建てる使命をお与えになります。もう一つは、イエスを見てから信じたトマです。イエスはトマにご自分の傷を差し出されます。その時トマは“わたしの主、わたしの神よ”と言ってその脇の傷に手を入れることなく主を信じ、自分の不信仰を告白します。これはとても意味深いことです。彼の信仰は非の打ちどころがなく、彼そのものです。三つ目は私たちにまで及んでいることです。イエスに出会ったことがないのにイエスを信じている多くのキリスト者たちです。私たちは見ないで信じる者であり、復活の主を信じています。

今日、復活節の第二主日は神の慈しみの主日と言われていています。2000年4月30日、聖女マリア・ファウスティナが列聖された時に教皇ヨハネパウロ2世によって名づけられ、ヴァチカンによって正式に定められました。神の慈しみの主日は聖週間と復活の八日間のあらゆる神秘と恵みを一点に集めています。復活のキリストの輝きは、全世界に向けられた慈しみの愛と恵みのまばゆい光線を一点に集中しています。聖女ファウスティナに出現されたイエスはこの祝日を特別に祝うことをお望みになりました。イエスは仰せになります。慈しみの祝日はイエスご自身の優しさの深みから発出したもので、人類はこのイエスの慈しみの泉に心から向かわなければ平和を得ることはない、と。また恵みが流出する聖なる水門は開かれており、どんなに罪に汚れていようとみかなる靈魂も主に近づくことを恐れてはならない、慈しみの祝日はイエスご自身の優しさの深みから発出したものである、と。

聖女ファウスティナの祈りで最後を結びたいと思います。“おお、御血と水、私たちへの慈しみの泉としてイエスのみ心からほとぼしり出た貴い御血と水、わたしをあなたに委ねます。” “聖なる神、聖なる全能の神、聖なる永遠の神、わたしと全世界を憐れんでください。” イエスわたしをあなたに委ねます。

(Sr. Paulina)

「イエスは、『ここに何か食べ物があるか』と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた」(㊦ 24, 42-43)。

『ここに何か食べ物があるか』。わたしたちが、復活の栄光に入られたイエスに期待している言葉がこれでしょうか。もっと次元の異なる崇高なお言葉をこそ期待しているのではないのでしょうか。いずれにせよ、復活したイエスが亡霊ではないことを証明する大変卑俗な立証なのでしょう。復活したイエスは、本当にわたしたちと同じ身体のうち生きておられる。しかし、わたしたちが身体の中に生きている事実とは、まったく異なる点が一つあります。イエスは、ご自分の身体を、自分のためにではなく、共に生きる人々への奉仕、愛の奉仕の完璧な道具、透明な表現として生きておられます。その頂点が十字架の死なのですが、復活者イエスも、この生き方を変えませんが、むしろ、完成します。復活の真実の把握に導くために、弟子たちの生きている次元にまで降りるのです。受肉、十字架の上の死、そして復活、すべてに神のケノーシスの糸が通っています。

復活の事実を弟子たちにも理解でき、信じることができる糸口、きっかけとするために、弟子たちの理解できる程度にまで合わせ、イエスは、体の持っている現実のもっとも卑近な日常的な行為、「食べる」ことをして見せます。それは、イエスが、食べる必要があったからではなく、弟子たちが真実の信仰に飛躍できるように、その土台を与えるためでした。イエスが、愛のケノーシスの内に食べた焼いた魚の一切れが、弟子たちの信仰を堅固にするのです。ここにイエスの弟子たちへの愛、思いやり、ここまで、ご自分を低くして、弟子たちの弱さに順応して、信仰を引き起こす心配りがあります。「ものを食する」と言う低いところにまで身をかがめる復活者イエスに出会った弟子たちは、一つのことを学んだことでしょう。復活の命とこの地上の命の間には、深いつながりがある、この世のどんな日常的なものも、あるいは、卑俗なものも、自分中心的ではなく、真実に他者に奉仕する心の構えで生きるなら、復活の命を垣間見せるものとなると。そして、復活への信仰は、貧しい人たちの空腹に無感覚になるのではなく、苦しむ人たちの身体の痛みを少しでも軽減することに力を尽くすことに、わたしたちを導きます。このとき、わたしたちは、イエスの十字架の死と復活の証人とされているのです。 ルカ渡辺幹夫

復活節第4主日 (ヨハネ10:11-18)

今日は善き牧者の主日として知られています。善き牧者というと、自分の羊を、その身の危険をも顧みず一生懸命に守り導く羊飼いの姿を思い浮かべます。今日、全世界の聖なるカトリック教会の信者たちは一つに結ばれて、司祭、修道者の召命のために祈ります。教会の頭であるわたしたちの主イエスに、満ち溢れる召命の恵みを祈願します。今日の福音で、イエスは“わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。”と仰せになります。ご自分の命を顧みず、犠牲にしてまでも、わたしたちのことを大切に思っていてくださるイエスです。事実イエスはそのご生涯において、迷子になった羊を心配し、探し続け、その羊のために命を捧げて下さいました。ご自分を良い羊飼いである、と宣言なさるイエスは、ご自分の羊をよく知っておられ、大切に世話をし、その成長を見守り、心から愛おしく思っていいらっしゃる方です。

イエスは、ご自分の羊に対して、全き献身と全責任を担う良い羊飼いです。良い羊飼いは羊が自分をよく理解していることを知っており、自分も羊のことをよく知っていると思っています。お互いに深い理解と愛をもって結ばれています。この愛と親密さによる強い絆は、イエスと御父の關係に譬えて考えられます。良い羊飼いは他の多くの羊に対しても仲間になるよう切望するものです。これは、実際に一人の羊飼いの許に集まる一つの群れが象徴する神の国への招きです。良い羊飼いは羊のために自分の命を捨てることを拒みません。イエスはご自分の意志によって、わたしたちのために命を与えてくださいました。イエスの死は、“友のために己の命を与えるほど大きな愛は無い”ということの生きた証です。これはイエスが真の善き牧者であることの証でもあります。

今日は善き牧者の主日であるとともに、召命祈願の主日でもあります。この日、私たちは先ず第一に、教会が福音宣教のために必要な多く人材に恵まれるよう特別に祈らなければなりません。いま司祭や修道者の召命が非常に少ないことを知っています。司祭や修道者以外にも神の民を導く信徒を増やして下さいよう願います。ここでもう一度召命という言葉の意味を考えてみましょう。“召命”という言葉は狭く考えすぎてきたようです。召命は司祭、修道者に限られたことではありません。私たち一人ひとり皆召命をいただいて生きています；夫であること、妻であること、父、母であること、教師、医師、役人、会社員やセールスマンであること、などは神が個別に与えて下さった召命です。神を愛するために、神の国の発展のために、自分に与えられた仕事を忠実に果たして行くことへの招きであり、神がお与えになった固有の才能に基づいて各自がユニークな、その人にしか出来ない、特別な献身をするための招きなのです。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (57)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

神の母のフェルナンドと十字架のマリア(2)

大きな病気をした後、ある日、これまた跣足カルメル会の修道女になろうとしている従姉妹が、カルメル会修道院へ彼女を連れて行きました。修道院では、その日、聖人(訳注:十字架の聖ヨハネ)が告解を聞きに来ていました。十字架のマリアは、そこで起こったことを、次のように語っています。

「(十字架のヨハネ神父は、) 私たち二人の告解を聞いてくれました。私は、自分が持っていた、また実現の可能性があるのか分からない望みを彼に話しました。聖人は、私を励まし、助言し、ミサを献げ、ご聖体を私たちにくださいました。姉妹たちは、聖歌隊席から私が見える所へ動くよう命じていました。ミサが終わるやいなや、私たちは面会室へ行きました。私たちが面会室へ行って、そこにいた時、労働者のように見える人がやって来て、姉妹たちは一人のとても良い人柄の、800ドゥカドの持参金をもった修道女を迎えようとしていると言いました。

それを聞いた私は、「姉妹たちは、私ではなく、この持参金のある、ふさわしい人を修道女として受け入れるのでしょうか。自分がふさわしい者でないとは何と良いことなのでしょう」と思いました。結局、良い望みをもった私の話は、よく評価されました。午後、私の従姉妹は私を家に帰しました。

他のすべての災難の後で、彼女は、どのように、まただれが、彼女を受け入れるために最後の一押しをしたのかを物語って、こう言っています。「私を受け入れることが決まったのは、次のようなことからでした。すなわち、…姉妹たちと母様(アナ・デ・ヘスス)は、私を受け入れることに対し、持参金のないことや、私がふさわしくないために、ためらっていた時、私たちの聖人は、アナ・デ・ヘスス母様と他の姉妹たちに、こう言ったからです。「母様、この人が修道院に何も差し出す物がないといたしましょう。その時、彼女の望みは消え失せるべきなのでしょう」。聖人の言いたいことを理解した姉妹たちは、私を受け入れることに決め、実際そうしました。なぜなら、彼女たちの聖人への愛と尊敬は大きかったので、聖人が同意したことを信じるには、聖人が望んだことを理解するだけよかったです」。

入会について語りながら、彼女はこう言っています。「聖なる十字架のヨハネ神父は、私に修道服を授けましたが、姉妹たちは、彼への尊敬の念から私に“十字架の”をつけ、彼の名前で私を呼ぶことを許してくださるようお願いしました。(続く)

去る2月20日、13年という年月を経て光市母子殺害事件に最高裁の判決が下されました。死刑です。

周知のことですが、この事件はこれまでに広く関心を引き起こし、さまざまな問題を提起し、社会全体を動かしてきました。犯罪被害者側の人権のこと、少年法に係る問題のこと、死刑制度の賛否のことなど、どれもが国民として一人の人間としてあいまいに見過ごしたりできないものであり、私もことのほか関心を深くして報道など注意をもってしてきました。

最終の判決が下ったことは、これまで何かと張りつめたものがあっただけに、身体力がぬけてしまったような感じを覚えます。

被害者の遺族である本村洋氏の13年間の壮絶な戦いは、氏にとって文字通りのいのちをかけた日々であり、またそこには多くの人が心を寄せ、英知を集め、労を費やしてきたことと思います。

妻と幼い娘を残酷きわまりない形で惨殺された事件当時は、私にはまだ少年のようにもみえる23歳という若さであり、言い表わしようもない悲しみ、怒りにたぎり、嗚る姿は、痛ましきこの上なく、いたたまれず身が震えました。

「法が殺さないなら わたしが殺す！」と叫ぶ悲鳴のような氏の声が今でも私の耳にあります。この叫びを発する素地なくしてどうして結婚したり、子どもを育てたりすることができるのでしょうか。

しかし、13年間の深い苦悩は、氏の面立ちをまるで修行僧のそれのように変化させていました。裁判終了後の記者会見で発せられる言葉は、ひたむきにまっすぐに真摯に迫りくるものでした。

「わたしが殺す」の言を謝罪するとともに、次のような主旨のことばが語られるのを私は一心に見入り、きき入りました。

死刑の判決は被害者の家族として満足しているが、うれしいとか喜びは一切ない。厳粛な気持ちでうけとめている。勝者などいないと思う。犯罪が起きた時点でみんなが敗者だった。加害者を死刑にしようとしていることは13年悩んできた。死んで償うのが正義なのか、生きて償うのが正義なのか絶対的な正義など誰も呈することはできないと思う。もしわたしが何もしないなら、妻と娘はたまたまあんな目にあってかわいそうだったねで終わってしまう。わたしのやっていることは、偶然を必然に変えることができるのではないかと思った。わたしは妻と娘の命と一緒に死刑囚の命をも背負っていかねばならない。

犯罪が起きたとき、どう考えたらよいかという契機になれば、妻の命、娘の命、加害者の命も無駄にはならないと思っている。

この度最高裁の死刑判決で、4人の裁判官の意見が3対1に割れたことは、裁判史上異例のことといわれますが、事件が終了となった今、私は心の底に渦まく苦しさをどうすることもできずにいます。この身ひとつのなかに、途方もない矛盾を抱えこみ、身の置きどころを失するような、思考が成り立たないような、おぼつかなさや焦慮に苛まれます。

私は本村氏のここまでの生きるさまを退けることができないのです。

しかし又、法がはたして死刑を持てるのかと、心の奥底から激しく突き上げるものがあります。愛だの、ゆるしだのという語句が、うわごとのようにさまよいます。

2001年のカトリック司教団からのメッセージ「いのちへのまなざし」をひっぱり出し、死刑についての頁をひらき、とりあえず今はこれを本村氏の目に触れぬよう隠してしまいたい衝動にかられ、同時にそんな自分もどこかに隠れてしまいたい、慌てふためくのです。

私は以前にも本誌に、死刑について、ゆるしについて、苦しい思いをただただしく記したことがあります。今回のようなことに直に接してしまうとき、ただただ苦しさが募り悶々とするほかすべがありません。

すべての人は社会の一員として、正義を担い、法を担わねばなりません。そして愛はきっと正義を超えるのです。「超えるもの」は自分の手に持つことはできないのですが、そうだとしたら「超えるもの」をどのようにして指し示すのでしょうか。

四旬節のさなか、聖堂の壁にめぐらされる十字架の道行きの銅板の下に立ちます。主イエズスを慕い、その苦しみに近づきたいと祈りながら、私の苦しみを小さなこだまのように響かせ重ねながら、正義を超える大いなるものをこの全身に浴びたいと希いながら、私は歩を運びます。

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

25. ロス・アンデスの聖テレサ (1900-1920) — その4

ロス・アンデスのテレサは、1900年7月13日にチリのサンティアゴに生まれ、イエス・マリアのみ心のホアナ・エンリケッタ・ヨゼフィナと名付けられた。両親は裕福な貴族階級に属し、6人の子に恵まれた。ホアナはその4番目の子供であり、家族からホアニタという愛称で呼ばれた。5歳の頃から、ホアナは、人々が神のことや宗教的な事柄について話をしているのを好んで聴き、決して飽きることがなかった。乗馬を愛した彼女は容貌にも恵まれていたが、それは虚栄心のもととなり、他の欠点とともに、大変な努力を払って克服しなければならなかった。6歳の時から、毎日ミサに与かるようになり、「イエス様は、私の心を、ご自分のものとなさるために、お取りになりました」と言っていた。聖体拝領を熱く望んでいたが、10歳になるまで待たなければならず、これは彼女にとって浄化のときとなった。初聖体の前夜、家族のもとに行き、家族の心を傷つけたかもしれないすべてのことについて許しを願った。初聖体を受けた時、「イエスと私の靈魂は、本当に一つに溶け合いました」と語っている。その後も、ご聖体を拝領するたびに、「イエス様は私に長時間お話になりました」と記録している。聖母マリアに対する深い信心を持ち、ロザリオを毎日唱えていた。15歳の時から、死に至るまで、詳細な日記を書き残している。度々、重病を患ったが、喜びを失うことなく、いっそう真剣に信仰を生きた。日記からは、彼女が、自分の人生を苦しみと愛からなるものであると考えていたことが読み取れる。学業成績も秀でていたが、彼女が最も誇りにしていたのは「マリアの子ども」であることだった。音楽の才能にも恵まれ、ピアノやオルガンを弾き、美しい歌声の持ち主でもあった。15歳の時、貞潔の誓いを立て、カルメル会に入る決心をした。パーティーやダンスを好む一方で、貧しい人々に対しても、心遣いを忘れなかった。カルメル会の院長との文通によって霊的指導を受けながら入会の準備をし、1919年5月7日にロス・アンデスの修道院に入会、イエスのテレサという修道名で呼ばれるようになった。8日後、彼女は家族に「カルメルに来てから8日経ちました。天国のような8日間でした」と書き送っている。しかし、この天国は重病のしるしを帯びたものとなり、1920年の聖週間の中に、チフスを発症、その苦しみは最高潮に達した。病者の塗油の秘跡を受けた後、カルメル会の誓願を立てることを許され、1920年4月12日、主の御腕の中で、眠りについた。生前、彼女は書き残している。「死ぬということは、愛のうちに永遠に浸されることです。」



ロス・アンデスの聖テレサ (初聖体のとき)

—— 祈り ——

私の愛するイエス、自分が悪い者であると感じるたびごとに、私は、あなたへの、そして天国への郷愁を感じます。天国においては、私はもはやあなたに背くことなく、イエスよ、あなたの愛に酔わされることでしょ。天国においては、私はあなたと一つのものどされるのです。そこでは、私の存在も動きも、あなたのうちになければならないのですから。

おお、イエス、いつになったら、私はあなたのうちに生きることができるようになるのでしょうか！ 私の意志ではなく、あなたのご意志が成就しますように！

主よ、私に苦しみを与えてくださることだけをお願いいたします。苦しみによってこそ、あなたのもとに行けるのですから。

私のイエス、私をあわれんでください。私があなたをお愛していることを、あなたはご存じです。私の母であるマリア様、間のうちにいる私をお助けください……。無。イエスは、私の靈魂のうちにおられません。聖母は私に答えてくださいません。イエス、あなたの不忠実な浄配をあわれんでください。そうです、私はあなたをお愛しています。私を見捨てないでください。おお、感謝いたします！ イエス、あなたは、みことばによって、この嵐を完全に消し去ることがおできになるのです。

私のイエス、なぜあなたは、私の貧しい心をこのような冷たさで覆われるのですか。ああ！それは、あなたが私を愛しておられるからです。あなたは、私があなたの愛によってのみ囲まれていることをお望みになります。私がどのような被造物にも愛着することのないように。このことは、愛が地上には存在せず、ただ神のうちのみあるということを理解することを助けてくれます。神に愛され、選ばれた聖なる靈魂でさえも、忘れてたり、無関心であったりすることがあるならば、他の人々はどうでしょうか。イエス、あなたは、私を愛するように鼓吹することのできるただ一人のお方です。私のイエス、私にとって、あなたがベタニアのイエスとなってくださいますように。

* * * * *

この記事は、執事カルメル在世会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者コリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは君に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

【聖母カルメル会誌】

いのちの言葉 3月

主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。
あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。

(ヨハネ 6・68)

イエスはご自分のもとに集まってきた群衆に向かい、「神の国」について話されました。日常生活に即したたとえを用い、わかりやすい言葉で語られるイエスの話は、皆の心を強くひきつけました。律法学者のようにではなく、権威ある者として教えられるイエスの言葉に、人々は心打たれていました。

また、イエスを捕らえるよう命令された下役たちが戻ってきた時、祭司長やファリサイ派の人々が「なぜ命令通りにしなかったのか」と尋ねると、下役たちは「今まで、あの人のように話した人はいません」(※1)と答えました。

ヨハネ福音書には、イエスがニコデモやサマリアの女性などと、すばらしい対話をされたことが記されています。また弟子たちに対しては、イエスは一層深い話をされ、御父や天の国について、たとえを用いずにはっきりと語られました。弟子たちは心打たれ、イエスの言葉を完全には理解できなかったり、多くを要求されると感じたりしても、ひるむことがありませんでした。

さてイエスが、ご自分の肉を食べさせ、血を飲ませるという話をされた時、何人かの弟子たちは「実にひどい話だ」(※2)と言いました。イエスは弟子たちがご自分から離れ、ついてこないのをご覧になり、十二使徒に向かって「あなたがたも離れて行きたいか」(※3)とお尋ねになります。ペトロは、イエスに初めて会った日からずっと、み言葉に心をひかれ、イエスに従う者となっていたので、皆に代わって、次のように答えました。

主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。

ペトロは、イエスの言葉が他の教師の言葉とは違うことを知っていました。地から出る言葉は、この世のものであり、やがて過ぎ去りますが、イエスの言葉は天から来るので、霊であり、命です。天から注がれる光、天の力を備える光です。イエスの言葉には、どんな哲学者、政治家、詩人も語るすることができない、深みと重みがあります。終わりのない神の命にあふれ、神の命を示し、伝える、「永遠の命の言葉」(※4)です。

* * *

私たちは、唯一の師としてイエスに従いたいと望んでおり、今月のみ言葉はそれを思い起こさせてくれます。たとえイエスのみ言葉が厳しく、要求度が高いと感じられる時にも、誠実に仕事をする、兄弟をゆるす、自分のことだけを考えずに他の人に仕える、忠実に結婚生活を送る、安楽死を選ばずに臨終の病人を介護するなど、実践の機会があるでしょう。

安易な解決策を取り、妥協するようにと教える人も多くいます。しかし私たちは、唯一の師、イエスの声に耳を傾け、彼に従うことを望んでいます。イエスこそ真理を語っておられ、彼は「永遠のいのちの言葉」を持っておられるからです。こうして私たちも、今月のペトロの言葉を繰り返すことができるでしょう。

この四旬節に、私たちはご復活の大祝日を迎える準備をします。唯一の師であるイ

イエスに学び、彼の弟子として生きるよう、本当に努力しましょう。私たちの心にも、み言葉に対する大きな愛が生まれるようにし、教会でみ言葉を聞く時やみ言葉を読んだり、学んだり、黙想したりする時に、それを大切に受けとめるようにしましょう。

しかし何よりも、私たちはみ言葉を実践するよう招かれています。「み言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません」(*3)と、聖書に記されている通りです。私たちが毎月、特に一つのみ言葉を選んで生きるようにするのもそのため、み言葉が私たちの内に深く入り、私たちを変え、私たちを「生かす」ようになるためです。イエスの言葉を一つずつ生きるなら、私たちは福音全体を生きることになります。どのみ言葉の中にもイエスのすべてが含まれており、み言葉を通してイエスご自身が私たちの内に来られ、生きてくださるからです。み言葉一つひとつは、復活のイエスの神聖な知恵のひとしずくのようなのです。イエスはゆっくりと、私たちの内にあるものを取り除いてゆかれ、ご自分で私たちを満たしてください。そして、私たちが生活のあらゆる状況において、イエスのように考え、望み、行動できるようにしてくださるのです。

キアラ・ルービック

- *1 ムハネ7・46
- *2 ムハネ6・60
- *3 ムハネ6・67
- *4 ムハネ6・68
- *5 ヤコブ1・22

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、2003年3月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

先月のいのちの言葉を生きた経験ヘルパーをしています。先日、週2回訪問していた人から、突然担当を変えられました。「この人とはうまくいっている」と思っていたので、ビックリしました。上司からは、「落ち込まないで、あなたが悪いわけじゃないのよ」と何度も慰められました。「悔い改めて福音を信じなさい」というみ言葉が浮かび、すぐに方向転換し、「これは私のために神様が与えてくれた試練だ」と思うと、喜んで受け取れました。その晩、今まで置ってきたことの資料や、教科書をはじめから読み直してみました。すると、今の自分に欠けていること、足りないことに次々と気が付きました。新たに生まれ変わったような気持ちになりました。翌日から、自分に欠けている部分に特に注意をしながら、仕事を続けています。

(MM-長崎)

お知らせ

キアラ・ルービック 追悼ミサ

とき : 3月4日(日)
14:30から
ところ : 聖イグナチオ教会・
マリア聖堂(2F)にて

いのちの言葉の集い

とき : 3月11日(日)
14:00から
ところ : 藤沢市労働会館にて

*詳細は各フォコラーレセンターまで

連絡先

フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

跣足カルメル修道会元総長(1991~2003年)カミロ・マクシセ神父帰天

メキシコ発(2012年3月16日)

1991~1997年、及び1997~2003年にわたり跣足カルメル修道会総長を務めたカミロ・マクシセ神父は、今日、3月16日、聖アルベルト・メキシコ管区の管区長館で帰天されました。75歳でした。死因は結腸癌で、一年以上、その苦しみに耐えました。

<カミロ・マクシセ神父の経歴>

1937年 メキシコのトルカで生まれる。数年間、トルカのカルメル会の学校に通った後、

1954年 ケレタロで修練院に入る。

1958年 第二パチカン公会議の直前にローマに派遣され、教皇立テレジアヌム神学院で哲学と神学を学ぶ。

1962年 4月29日にローマで司祭に叙階される。

1963 - 1965年 カルメル会メキシコ管区の哲学・神学大学で教義神学と霊性神学の教授を務める。

1968-1971年 エルサレムとローマの聖書研究所で学び、聖書学の学位を取得

1988年 コロンビアのボゴダにあるハベリアナ大学で神学博士の学位を取得。

彼の博士論文の題名は、「聖パウロにおける、また中南米に基礎を置く教会共同体における、みことばと共同体」であった。

マクシセ神父は、メキシコ、ラテンアメリカ、ヨーロッパにおけるいくつかの研究機関で、すなわち、メキシコ・シティのイベロアメリカ大学、コロンビアのメデリンのラテンアメリカ司教評議会、そしてローマのテレジアヌム神学校などで聖書学と霊性神学の教授を歴任した。

彼は特に奉獻生活の神学を深く探求し、メキシコの修道会管区長会議(CIRM)の副会長を務めた。また、1975年からは、聖書神学者として、ラテンアメリカ・カリブ海修道会会議の神学委員会の委員であった。

<総長時代>

マクシセ神父は会内で責任と裁治権の伴ういくつかの職務を歴任した。

1978年 メキシコの管区長に選出され、約一年半の間務める。

1979~1985年 フェリペ・サインス・デ・バランダ神父の第一期目の総長時代に総長顧問に指名される。

1991年 カステルガンドルフォ近郊の町アリッチアの総会で総長に選出される。フランスのリジューでの総会で総長に再選される。彼は特に不安定な変動期に会の先頭に立った。総長時代は、修道会総長連合会(USG)の一員であり顧問であった。

1994～2001年 彼はUSGの会長に選出される。

1998年 教皇ヨハネ・パウロ二世により、教皇庁2000年大聖年祝典委員会の委員に任命される。

1994年 「奉献生活」に関する第9回シノドス定例総会（10月2日～29日）にメンバーとして参加。

1997年 アメリカの司教総会（11月16日～12月12日）にも参加。

2001年 第10回シノドス定例総会（9月30日～10月27日）に参加。

2003年に総長職を辞してからは、メキシコ管区に戻り、2005～2008年の間、管区長を務めた。スペインのアルバ・デ・トルメスの共同体をはじめ、彼は世界中を旅し、研修会や講演を行い、いくつもの修道会の総会や管区会議の顧問として招かれた。

最後に、結腸に腫瘍が見つかり、メキシコに戻り、共同体や家族に近い所で治療を受けた。

<哀悼の言葉>

マクシセ神父帰天のニュースはインターネットですばやく知れ渡った。ウェブ・ページでは、彼の死亡記事が更新され続けてきた。また、多くの哀悼と友情のメッセージが次々と寄せられた。

跣足カルメル修道会総長のサベリオ・カンニストラ神父は、帰天当日にこの訃報を受けて聖アルベルト・メキシコ管区の管区長に次のような心のこもった哀悼の言葉を送った。「私は、主が私たちカルメル会ファミリーにカミロ・マッシセ神父様のような素晴らしい人物を贈ってくださったことを心から感謝いたします。彼は献身的に働き、会の歴史に大きな足跡を残されました。」カンニストラ総長は、カルメル会クラコフ管区の司牧視察中にこの訃報を聞き、跣足カルメル会総長職の前任者であったマクシセ神父を偲びつつ、ミサ聖祭の中で、神の慈しみに彼を委ねた。

マクシセ神父が総長であった時の側近の協力者フラビオ・カロイ神父は、「マクシセ神父は、神から跣足カルメル修道会と教会への偉大な贈り物であった」と言い、マクシセ神父の神への奉獻、仕事に対する優れた能力、思考の明確さ、並外れた気力（そのリーダーシップは、カルメル会のために多くの重要な事柄において発揮された）を強調した。

また、訃報を聞いたスペイン修道会協議会（CONFER）の事務総長フリヤ・ガルシア・モンヘ神父は、「マッシセ神父の修道生活における功績に感謝します。彼が、イエス・キリストと恵まれない人々のために心を動かされ、これからも預言者的な修道生活の理想へと我々を励ましてくれることと確信しています。彼の生涯の証しはいつも我々と共にあるでしょう」と述べた。



『わがテレーズ 愛の成長』 重版のお知らせ

マリー・エウジェンヌ師が尊者に挙げられたのを機に

絶版となっていました『わがテレーズ』が重版されました！



マリー・エウジェンヌ 著
伊從 信子 訳
サンパウロ 出版 173 ページ

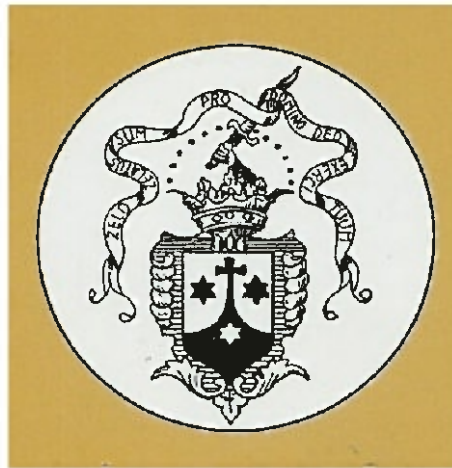
現代社会は 神に飢え渴くものにとってはまさに水も食べ物もない荒野である。
それでも 神に向かう旅路を歩み続けなければならないとするならば、
どうしたらよいのだろう。

本書は、この重要な問いに応えてくれる。

「自分が無に過ぎないことを認めて、幼子のように、神のみ腕に自分を委ねさえすれば足りる」神への単純なまなごしを生きる、これならば信徒にも可能なことである。

～森 一弘 司教～
表紙のとびらより

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～'13年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

6月22日～ 6月23日

9月 7日～ 9月 8日

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

2. 奉獻生活者の為の黙想会

7月26日(木) 18時～8月 4日(土)

福田正範神父

8月16日(木) 18時～8月25日(土)

福田正範神父

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土)

福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

年間テーマ 「信仰」

4月19日 「信仰の創始者、完成者であるイエス」

福田正範神父

6月21日 「信仰に生きる」

古川利雅神父

9月 6日 「信仰の成熟」

渡辺幹夫神父

11月29日 「信仰とは？」

中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

7月13日 「ロス・アンデスの聖テレサ」

古川利雅神父

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」

中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」

渡辺幹夫神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅神父、神学生

4月28日(土) 15時～4月30日(月) 「希望に生きる」

11月23日(金)～11月25日(日) 「信仰に生きる」

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅神父、神学生

7月14日(土) 14時～16日(月) 「愛に生きる」

7. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月5日(木)～8日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子 (ノートル・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

※ 5月18日(金)20時～20日(日)16時 信仰の年にあたって(I)

※ 10月19日(金)20時～21日(日)16時 信仰の年にあたって(II)

※3月号の日時に間違いがあり、修正致しました。お詫び申し上げます。

9. 聖週間前の黙想会(2013年) 福田正範神父

※注)2013年

3月17日(日)18時～3月19日(火)16時 過ぎ越しの子羊・キリスト



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたしません)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

木曜黙想会

2012年度年間テーマ《 信仰 》

信仰の創始者、完成者であるイエス

日 時：2012年4月19日（木） 10時～16時

指 導： 福田正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL.03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・FAX，メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

カルメル青年黙想会

希望に生きる



日 時 : 4月28日(土) 15時 ~ 30日(月) 16時

場 所 : 聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線 上野毛駅下車)
対 象 : 青年男女(35歳まで)
定 員 : 20名
指 導 : 福田正範神父・カルメル会士
費 用 : 一般 10,000円 学生 7,000円

参加をご希望の方は、ハガキ・
FAX・E-mailのいずれかで
住所・氏名・性別・年齢・電話
番号・所属教会名をご記入の上
4月21日(土)まで(必着)に
下記宛てにお申し込み下さい。

(お問い合わせ 及び お申し込み先)

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764 E-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

さらに 深く信じさせてください

2012年5月18日（金）20時～20日（日）15時

「信仰年」を迎えるにあたり、

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

「信仰の門」は

常にわたしたちに開かれています。

神のことばが述べ伝えられ、

わたしたちを造り変える恵みによって

心が形づくられるとき

わたしたちはこの門を通ることができます。

この門に入るとは、

生涯にわたって続く旅に出発することです

教皇ベネディクト十六世

「ホルタ・フィデイ」



- 指 導： 伊 従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、筆記用具、パジャマ
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み： F A X : 03-3704-1764 Eメール： mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2012年6月22日（金）18時～23日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）



* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

5月15日	5月18日
6月12日	6月15日
7月10日	7月13日
10月16日	10月19日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

4月24日	4月27日
5月29日	6月1日
6月26日	6月29日
9月25日	9月28日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

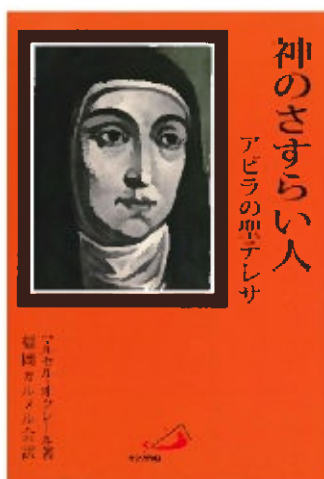
いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

1	4月20日	「聖書への親しみを持つことから」
2	5月11日	「天地創造の物語を読む」
3	5月25日	「あなたは誰？」(1)
4	6月8日	「あなたは誰？」(2)
5	6月22日	「人間の問題性」(1)
6	7月6日	「人間の問題性」(2)
7	7月20日	「信仰を生きるとは？」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】1泊2日(午後5時～午後4時)

- 5月12日(土)～13日(日) 聖母の愛 新井延和神父
7月 7日(土)～ 8日(日) 聖霊の体験 今泉健神父
9月 1日(土)～ 2日(日) 神の国の訪れ 松田浩一神父
11月24日(土)～25日(日) 黙示録 新井延和神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日(午前10時～午後4時)

- 4月28日(土) 新井延和神父
6月30日(土) 新井延和神父
10月 6日(土) 新井延和神父
12月22日(土) 新井延和神父

・ 水曜の黙想(午前10時～午後4時)

- 4月18日(水) 復活のキリスト 今泉健神父
5月30日(水) マリアとヨゼフ 新井延和神父
6月20日(水) キリスト教信仰 松田浩一神父
7月25日(水) 真理 新井延和神父
9月 5日(水) テレーズと共に 今泉健神父
10月17日(水) 終生おとめ聖マリア 松田浩一神父
11月14日(水) キリストの第二の到来 今泉健神父
12月12日(水) 受肉 新井延和神父

・ 待降節の黙想(午後5時～午後4時)

- 12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

・ 聖テレーズの黙想(午後5時～午後4時)

- 9月30日(日)～10月1日(月) 伊従信子師

【キリスト教霊的同伴】(午後 8時～午後 3時) 限定10人

- 5月2日(水)～5月6日(日) 松田浩一神父

カルメル青年黙想会(午後5時～午後4時)

- 4月28日(土)～4月30日(月) カルメル会士 観想者イエス。キリストに従う
11月10日(土)～11月11日(日) カルメル会士 観想者聖マリアに従う

【一般のためのカルメルの霊性入門】（午後5時～午後4時）

10月14日（日）～10月15日（月）松田浩一神父
イエスの聖テレサの靈魂の城の導入

奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（木）～8月11日（土）松田浩一神父
8月16日（木）～8月25日（土）今泉健神父
12月27日（木）～1月 5日（土）新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
4月5日（木）～4月8日（日）[講話なし、各食事つき]

【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
12月24日（月）～12月25日（火）[講話なし、各食事つき]

講座 『テレジアは現代に何を語るか』

場所： 京都カテドラル横の教区事務局6Fホール

5月19日（土）午後2時半～

新井延和神父 『自叙伝』による「テレジアの涙」

6月16日（土）午後2時半～

松田浩一神父 『創立史』にみる信仰の歩み

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル青年黙想会

観想者イエス・キリストに従う

カルメル修道会会員は、「観想者イエス」に従って集う生活をしています。この三日間（4/28~4/30）、世間のケータイやネットに縛られた生活から離れて、沈黙のうちに、「観想者イエス」に従って集う生活を体験してみませんか。

日時：2012年4月28日（土）午後5時集合

～4月30日（月）午後4時まで

場所：男子跣足カルメル修道会 宇治聖テレジア修道院（黙想の家）

参加者：18歳～35歳（青年男女）

費用：社会人 7,000円、学生 5,000円

指導者：松田浩一 神父、今泉健 神父

黙想の家のお世話：カルメル宣教修道女会

連絡先：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院 院長 松田浩一

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

<http://www1.ocn.ne.jp/~carmeluj/adress1.htm>

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

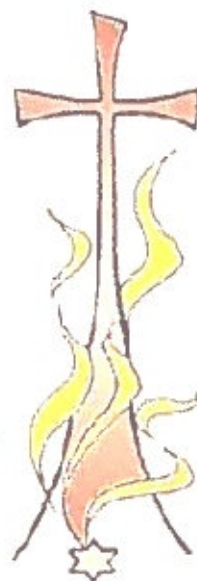
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ② | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ③ | | 3月16日(金)～17日(土) |
| ④ | | 4月13日(金)～14日(土) |
| ⑤ | | 6月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑥ | | 7月13日(金)～14日(土) |
| ⑦ | | 9月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑧ | | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ | | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ⑪ | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑫ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12・21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的になくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御尊の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川剛雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エフジェニス 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.バフリナ (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム
 10:00～ 祈り・導入・黙想
 10:30～ 講話(1)
 黙想・赦しの秘跡または面接
 11:50～ 風の祈り・お告げの祈り
 12:15～ 昼食
 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 13:30～ 講話(2)
 14:45～ ミサ
 15:30～ 茶話会・分かち合い
 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市中熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市中東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2012年度名古屋聖書深読会

第1回 4月30日(月・祝) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月27日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき

(来る時間も帰る時間も自由)、靈的にだけではなく

心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:30～16:30

場所 三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min. 聖書朗読と短い講話

14:30～15min. ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min. サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30 終了



各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル靈性センター

〒921-8162 金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会三馬修道院 三上和久神父

TEL 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター

真命山 霊性交流センター

リーゼンフーパー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

マリアの御心会

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

慈しみ深き会

CWC (キリスト者婦人の集い)

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご紹介下さい。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」藤原神父
FAX 072-802-5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

- P 1 04/10 (火) -4/16 (月) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 1 04/27 (金) -5/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 06/02 (土) -6/4 (月) 東京・小金井・聖霊会 2泊3日
- N 2 06/15 (金) -6/21 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 2 07/20 (金) -7/26 (木) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 3 09/20 (金) -9/26 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 3 09/30 (日) -10/06 (土) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 10/12 (金) -10/18 (木) 東京・小金井・聖霊会
- N 4 10/28 (日) -11/3 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 12/01 (金) -07/26 (木) 東京・小金井・聖霊会

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 1月12日 | 愛の秘跡である御聖体 |
| 2月9日 | 信仰の神秘 |
| 3月8日 | 「過越」の子羊 |
| 4月12日 | 教会を生み出す御聖体 |
| 5月10日 | 御聖体とおとめマリア |
| 6月14日 | キリストによって、キリストとともに、キリストの内に御聖体に生かされて生きる |
| 7月12日 | 御聖体に生かされて生きる |
| 8月 | 休み |
| 9月13日 | 御聖体の典礼と美 |
| 10月11日 | 御聖体と福音の宣教 |
| 11月8日 | 御聖体礼拝 |
| 12月13日 | 終末の宴 |

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ
神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト
教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関
してHP(文末)を見て下さい。
夏学期:近代前半の霊性と思想(15世紀後半～17世紀)
04/14、04/28、05/12、05/19、
05/26、06/02、06/16、06/30、07/07、07/14、
07/28、09/01、09/08

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45
分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はク
ルトゥルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40
分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。
・通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日)18時～20
時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウ
ス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月12日、6月16日、7月7日、9月1日、10月6日、
11月10日、12月1日、
2013年1月5日、2月2日、3月2日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50
分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

6月9日(土)10時～10日(日)14時(東村山)、9月29日(土)
10時～30日(日)14時(東村山)、
11月24日(土)10時～25日(日)14時(東村山)、
2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊
6600円程度。

[関西] 10月27日(土)13時30分～28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、
4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。
4月28日(土)20時30分～5月5日(土)10時
6月22日(金)20時30分～24日(日)10時
8月6日(月)20時30分～12日(日)10時
9月14日(金)20時30分～17日(月)10時
10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時
宝塚市
4月21日(土)13時30分～22日(日)16時
7月30日(月)17時45分～8月5日(日)15時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18
時)。上智大学内SJハウス第5会議室
4月15日(日)、6月2日(土)、2013年1月26日(土)
2012年10月21日(日)の集いは13時から。岐部ホール4
階404(予定)

●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホー
ル4階404(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クル
トゥルハイム聖堂(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 04/13: 信仰の道— 人生の意義を問う
04/20: 聖書の人間像— 人間の現状と使命
04/27: 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
05/11: 神認識の道— 理性と経験を通して
05/18: 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
05/25: 歴史と信仰— 神と人間との出会い
06/01: 新約聖書の神理解— 主なる父
06/08: 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
06/09-10: ●黙想会(東村山)
06/15: 救い主の役割— 人類の待望
06/22: 神の国— イエスの告げるメッセージ
06/29: イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
07/06: イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
07/13: イエスは誰か— イエスの自己理解
07/20: 最後の晩餐— 自分を与えるイエス
07/27: イエスの受難— その史実と意図
07/28: ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/03: ○休み
08/10: ○休み
08/17: イエスの死— その救済的意義/(上智大学内クルトゥルハイム2階)



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

【基盤】

- 04/03: 存在の超越と内在— 神理解への道
04/08: ◆復活祭ミサ(13時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)

【人間】

- 04/17: 人間:神の似姿— 理性・自由・信仰
05/01: ○休み
05/15: 救いの歴史— 時間における意義

【神】

- 05/29: 無限への問い— 理性による神理解
06/05: 世界の根源— 創造的自由・進化・摂理
06/09-10: ●黙想会(東村山)
06/19: 人生のうちに働く超越— 神経験の多様な形
07/03: 「私は在る」— 旧約における神の自己啓示と預言

【人間への神の関わり】

- 07/17: 神の語りかけ— 「契約」と「救い主」の待望
07/28: ◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

特別・祈りの集いのお知らせ

2012年復活祭後の土曜日、4月14日



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父は教会により英雄的な徳を認められ、「尊者」の称号を与えられました。

その喜びと感謝のうちに、現代の人々を神へと導くというマリー・エウジェンヌ師の使命が果たされる事を願って、特別・祈りの集いを企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。

ープログラムー

1時～5時半頃まで・・・通常の祈りの集いと開始時間が変更されていますので、ご注意ください。

- ◆ 講話 『わたしは神をみたい』の著者
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父の現代における使命
- ◆ 沈黙の祈り
- ◆ ミサ 感謝のミサ (3時ごろ)
- ◆ お茶
- ◆ マリー・エウジェンヌ神父の紹介 (プレゼンテーション)

場所：ノートルダム・ド・ヴィ 参加費：200円

お申込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japani@gmail.com

ホームページ <http://www.ndv-jp.org/>

尚、通常の祈りの集いは 2012年3月24日(土)です。

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2012年

4月 14日(土) 特別・祈りの集い(1時～5時半頃)

5月 26日(土)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂きますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

働く人のための
祈りの集い
みことばの分かち合い

時間 19:00～20:30 (第2水曜日)

2012年4月11日 5月9日

6月13日 7月11日



軽食あり、自由献金

主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

お問い合わせ 申し込み

TEL 03-3351-0297

「来て、見なさい」

「イエスからの招き」

—主よ、私の道はどこに—
祈りと分かち合い

テーマ：2/26(日)：あなたの家に泊まりたい
4/15(日)：必要なことはただ一つ

時間：14:00～16:30 *ミサはありません。

対象：自分の道を探している35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：新宿区南元町6-2 マリアの御心会

電話：03-3351-0297 申し込み2日前

5月 連休の 黙想会



日時：5月4日(金) 10時から
6日(日) 昼食まで

テーマ：「イエスからの呼びかけ」

指導：トマス・ヴァルキ師 イエスス会

場所：町田祈りの家 (忘れなきマリア修道士会)

対象：自分の道を探している
35歳までの独身女性

費用：12,000円

申し込み：マリアの御心会

Tel.03-3351-0297 4月15日まで

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ② 12年 3月14日(水)～ 3月22日(木)
- ③ 8月15日(水)～ 8月23日(木)
- ④ 10月27日(土)～ 11月 4日(日)
- ⑤ 12月27日(木)～13年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 3日(金)～ 2月 5日(日)
- ② 4月27日(金)～ 4月29日(日)
- ③ 5月18日(金)～ 5月20日(日)
- ④ 6月15日(金)～ 6月17日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～ 7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～ 9月23日(日)
- ⑦ 11月23日(金)～11月25日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師(カルメル会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

【一日黙想会のご案内】

テーマ：つなぐ

指導：幸田 和生 司教（東京教区補佐司教）

日時：5月26日（土）10：00～16：00 受付 9：30～

場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

〒182-0034 調布市下石原3-55-1

対象：男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ。

会費：2,000円（お弁当代を含む）

申込み：5月19日（土）まで。電話〔042-482-2012〕

FAX〔042-482-2163〕

受付時間 午前9：00～午後6：00

定員：80名まで受付けます。

主催：コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

* 当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。北口を出て、線路沿いに西調布駅方面に歩く。立体交差の下をくぐり左折。踏切を渡って200m歩き、二つ目の信号の右手（鶴川街道沿い）マルガリタ幼稚園内。徒歩で20分。タクシーで5分。

以上、どうぞよろしくお計らいくださいませ。



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—(第6回目)
『靈魂の城』第一の住居、第2章より

日時：5月16日(水) 14:00~16:00

場所：イグナチオ教会信徒会館(アルペホール)



九里彰神父

CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの靈性に学ぶ

『完徳の道』
第19章~第20章

日時：5月15日(火) 10:30~12:00

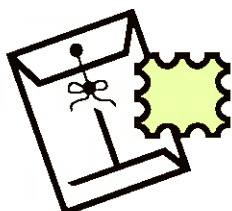
場所：真生会館

九里彰神父

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号(8月号休刊除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

(※2013年通年の年間購読に関しましては後日、別途告知致します)

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

時間ぎりぎりまで何かをしていて、最後は「走れメロス」のようになることは、前にも書いたことがあるが、先日も、上野毛で失敗してしまった。

真生会館から上野毛にもどってきたのは、午後2時頃。3時から霊性センターニュース編集会議。まだ時間がある。そこで第二修道院（管区長館）で他のことをしていた。が、はっと気がつく、すでに3時。慌てていつも会議を行なっている黙想の家の講話室へと走った。勢いよく講話室のドアを開けると、某修道会のK神父のびっくりした顔。「アッ！どうも」と会釈をしてドアを閉じる。黙想会の講話中であった。

ここでないとすれば、どこか。黙想の家の食堂のはず。今度は、食堂へ突進。さっと中に入ると、女性が一人、後ろ向きに坐っている。その後ろ姿がスタッフの一人に良く似ていた（スタッフは、私の他に、女性3人と男性1人）。「いやー、どうも遅くなりました」と大きな声で入って行くと、その女性がくると後ろを振り向いた。見知らぬお方…、個人黙想にきたシスターらしき雰囲気。ティータイム？ 「アッ！どうもすみません」と、ここも退散。

残るは、信徒会館のみ。中に急いで入ろうとすると、入り口に「今日のセンターニュースの編集会議は信徒会館のロビーで行なっています」という張り紙。何ごともなかったかのように、会議は始まった。「日々是好日」。(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「5月号」製本日 4月24日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171